



おおつ保健医療プラン2019(第3期大津市保健医療基本計画)

最終評価(自己評価)

市民意識調査

おおつ保健医療プラン 2 0 1 9 の最終評価を行うにあたり、令和 5 年度に市民意識調査を実施しました。

集計結果は、「最終アウトカム※」の指標として設定した数値の実績値を示しています。

※最終アウトカムとは、本計画において「市民がなっているべき状態」として設定している目標です。

市民意識調査の概要	
目的	平成31年 3 月に策定したおおつ保健医療プラン 2 0 1 9 （第 3 期大津市保健医療基本計画）の評価を行うにあたり、保健医療についての、市民の意識・実態を調査しました。また、当調査結果は、第 4 期計画を策定するための基礎資料としても利用する予定です。
対象地域	大津市全域
調査対象	市内在住の20歳以上85歳未満の住民から3,500人を無作為抽出
調査期間	令和 6 年 2 月13日から同月29日まで
調査方法	郵送法・インターネット調査法の併用
回答数	1,534人 （回収率43.8%）

集計結果の算出方法

・基礎データ：各回答に対して下記のとおり配点を行っている。

回答	配点
できている	10
まあまあできてる	7
あまりできていない	4
できていない	1

・平均値：
有効回答の配点合計を有効回答総数で割った値
「平均値が高い＝市民の満足度が高い」と評価する。

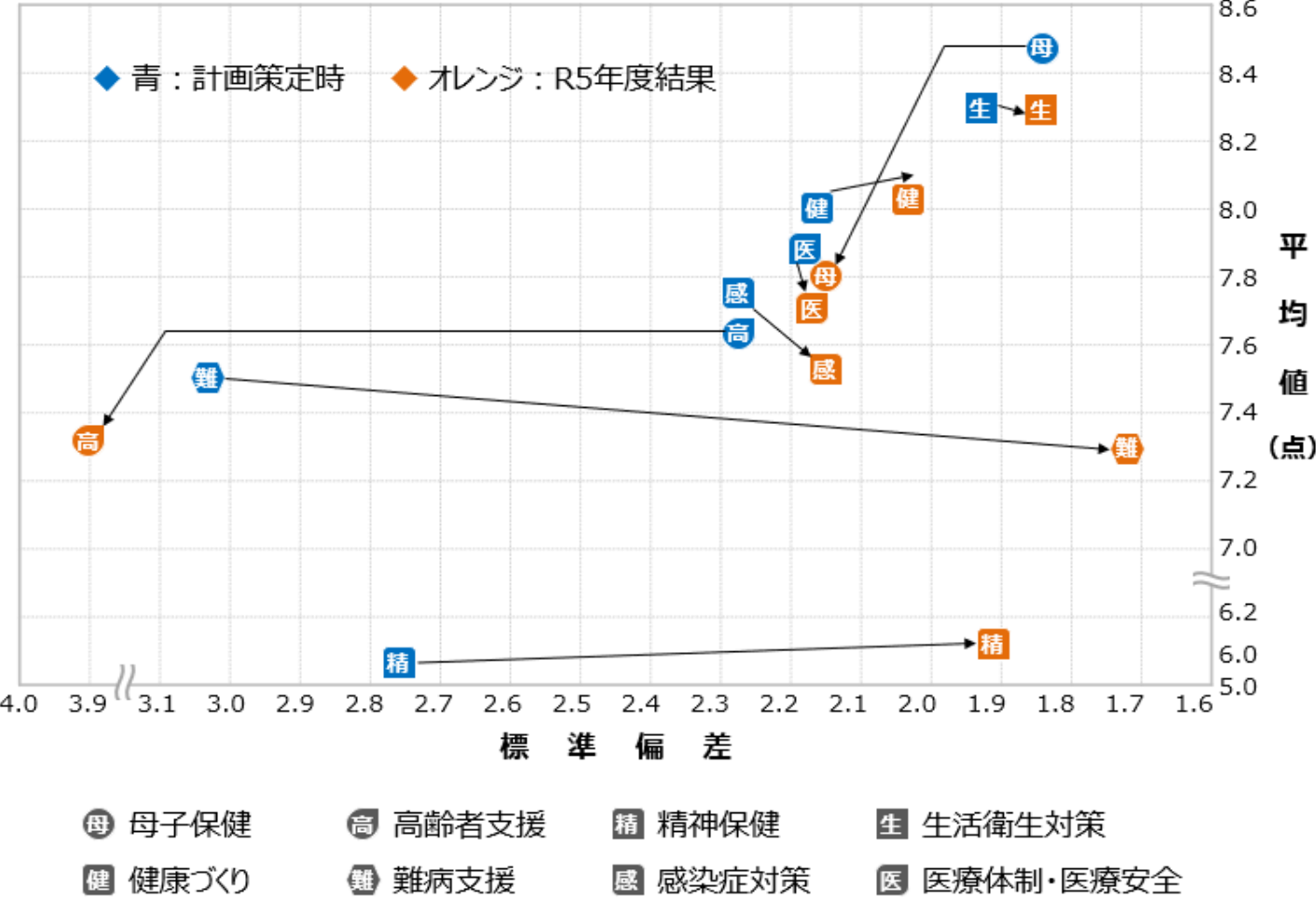
・標準偏差：
各配点の数値から配点合計の平均を差し引いた値の二乗を合計し、さらに回答総数で割った値の正の平方根の値
「標準偏差が大きい＝市民の意見のばらつき幅が大きい」と評価する。

市民意識調査結果の概要

1 最終アウトカムの状況

分野	市民がなっているべき状態	最終アウトカムの状況			
			計画策定時	令和2年度	令和5年度
1-1 母子健康	全ての親と子どもが、心身とも健やかに安心して暮らすことができる (指標) 子育てしている保護者と子どもが心身とも健やかに安心して暮らしていると感じる割合	平均値	8.46	8.13	7.81
		標準偏差	1.84	2.04	2.15
1-2 健康づくり	市民が、疾病予防に努めるとともに、病気の有無にかかわらず、前向きに自分らしく暮らすことができる (指標) 病気の有無にかかわらず、前向きに自分らしく暮らすことができていると感じる割合	平均値	8.00	7.77	8.03
		標準偏差	2.17	2.15	2.02
1-3 高齢者支援	市民が、高齢になっても健康を維持でき、生きがいをもっていきいき暮らすことができる (指標) 健康を維持でき、生きがいをもっていきいき暮らすことができていると感じる高齢者の割合	平均値	7.61	7.12	7.37
		標準偏差	2.28	2.47	3.90
1-4 難病支援	難病患者や家族が、望む場所で望む人と、安心して自分らしい生活を送ることができる (指標) 難病患者及びその家族が自分らしく暮らすことができていると感じる割合	平均値	7.58	5.83	7.30
		標準偏差	3.06	2.67	1.71
1-5 精神保健	精神障害者や精神的健康に課題を抱える者及び家族並びに地域住民が、安定した社会生活を送ることができる (指標) 精神疾患がある方及びその家族が自分らしく暮らすことができていると感じる割合	平均値	6.09	5.53	6.11
		標準偏差	2.75	2.50	1.91
2-1 感染症対策	市民が感染症の脅威から逃れ、安心して暮らすことができる (指標) 感染症に関して不安なく暮らすことができていると感じる市民の割合	平均値	7.69	7.20	7.57
		標準偏差	2.28	2.30	2.14
2-2 生活衛生対策	市民が健康で衛生的な日常生活を送ることができる (指標) 食べ物や暮らしを取り巻く衛生面に不安なく日常生活を送ることができていると感じる市民の割合	平均値	8.33	8.12	8.29
		標準偏差	1.92	1.82	1.84
3-1 医療体制・医療安全	市民が望んでいる安全・安心な医療を受けることができる (指標) 医療を身近に感じて、安心して受診することができていると感じる市民の割合	平均値	7.91	7.70	7.79
		標準偏差	2.18	2.31	2.16
3-2 健康危機管理	災害が起こったとき、市民が健康を保つことができる 新型インフルエンザ等が発生したとき、市民が健康を保つことができる	万一の発生に備え、体制整備に努めており、今後も継続的に行う ・災害に備えた体制の構築 ・新型インフルエンザ等発生時に備えた体制の構築			

2 最終アウトカムの平均値及び標準偏差の結果推移



用語

- 標準偏差：データ分布の広がり幅（ばらつき）を示す尺度のこと

グラフについて

- 各分野についての最終アウトカム指標を測定し、集計した結果を示しています。
- 縦軸に「平均値」、横軸に「標準偏差」を置き、計画時からR5年度における分野毎の結果推移を散布図で表しています。
- 当グラフにおいて「平均値が高い＝市民の満足度が高い」、「標準偏差が大きい＝市民の意見のばらつき幅が大きい」という読み方をします。

【読み方例】

平均値は横ばいだが、標準偏差が大きくなった分野については、「一部の市民については満足度が向上したが、一定の市民には取り組みの効果を実感いただけていない可能性がある。」という読み方が出来ます。

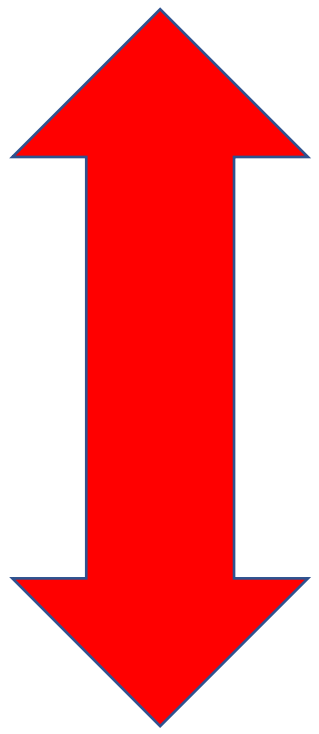
おおつ保健医療プラン2019 最終評価シート

基本目標1 生涯にわたる健康づくりを進めます

分野1 母子保健

市民がなっているべき状態(最終アウトカム)										
全ての親と子どもが、心身とも健やかに安心して暮らすことができる										
最終アウトカムの指標										
子育てしている保護者と子どもが心身とも健やかに安心して暮らしていると感じる割合										
数値目標実績 (上段:平均値(10点満点)／下段:標準偏差)										
計画策定時	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減	目標	定量的評価	総合評価
8.46	→	8.13	→	→	7.81	→	-0.65	上昇	未達成	市民意識調査の結果、最終アウトカムに関しては、計画策定時に比較して平均値がやや低下し、また標準偏差がやや拡大する結果となった。 この点、母子保健の中間アウトカムの各指標については、全ての指標で目標を上回っているか同等レベルであることから、子どもや親が心身共に安定した状態であれば、満足度は高くなると考えられる。 しかし、昨今の本市においては、身近にサポート者が居ない核家族の転入増加に伴い、特定の地域で乳幼児人口が増加している状況であり、新市民が転入前と比較すると、イレギュラー対応が求められる際のサポート不足感を抱きやすい状態になっていると考えられる。この結果、標準偏差が拡大し、また、平均値の低下を招いたと考えられる。
1.84	→	2.04	→	→	2.15	→				※「保健医療に関するアンケート」のうち「6歳以下の子どもがいる人」の自由回答を確認したところ、小児科医療(診療所偏在、小児救急)に関することが多くを占めていたため、調査対象及び調査項目が多く、ほぼ同時期に実施された「子ども・若者支援計画策定のためのアンケート結果(未就学児保護者分)」もあわせて検討している。

市民が受けているべきサービスの状態(中間アウトカム)
1 市民が安心して妊娠できる 2 市民が妊娠から出産、育児期までを安心して過ごすことができる 3 市民が安心して子育てできる

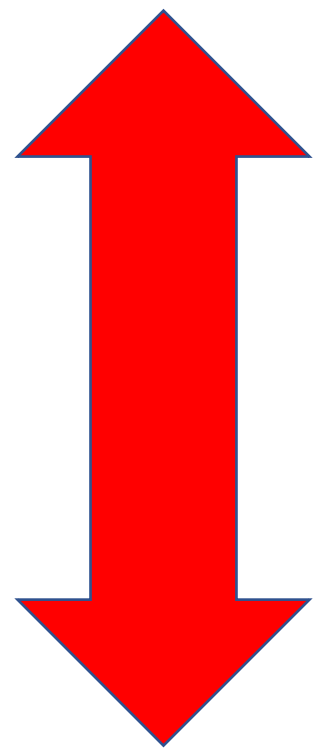


最終アウトカムと中間アウトカムの関係について
中間アウトカムについては、概ね目標値を達成しているものの、最終アウトカム評価に結びつかなかった。 中間アウトカムについては保健所としての取組みの結果が反映されている一方で、最終アウトカムの測定対象である市民意識調査アンケートでは、相談所の存在が浸透していない層がいることが分かったほかは、地域の(小児科等)クリニックに関する医療サービスの利便性向上や充実度向上を希望する声が多く、保健所の取組みと直接的な因果関係を認められない意見も多く見受けられた。

中間アウトカムの指標		計画策定時	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	達成率	定量的評価	総合評価
1 妊娠11週以下での妊娠の届出率	目標		→	95.0%	→	→	95.0%	→	—	—	HPへの掲載や医療機関の協力による情報提供によって、妊娠前・妊娠時の適切な時期に、妊娠届出の必要性を理解する機会を住民に提供できている。その結果、計画策定時の届出率94.7%から目標値の95.0%を上回る97.1%に到達しており、市民が安心して妊娠できるまちづくりに寄与していると考えられる。
	実績	94.7%	95.4%	97.5%	97.0%	96.6%	97.1%		102.2%	達成	
2 出産後の4か月健診で、毎日の生活に不安なく過ごせている人の割合	目標		→	87.0%	→	→	87.0%	→	—	—	伴走型相談支援の実施によって、妊娠期からのかかわりが強化され、新生児訪問件数や子育てに関する相談件数が共に増加しており、新生児を抱える市民の不安軽減に寄与していると考えられる。その結果、出産後の4か月健診で、毎日の生活に不安なく過ごせている人の割合が、計画策定時の届出率86.5%から目標値の87.0%を上回る88.6%に到達しており、市民が妊娠から出産、育児期までを安心して過ごすことができるまちづくりに寄与していると考えられる。
	実績	86.5%	88.7%	86.5%	88.8%	87.5%	88.6%		101.8%	達成	
3 幼児健診で「子育てに充実感がある」と答えた人の割合	目標		→	98.0%	→	→	98.0%	→	—	—	大津市では、市内7か所の身近な相談窓口(すこやか相談所)で常時相談ができる体制を取っており、子育てをする住民からの相談対応や情報提供をタイムリーにできている。この結果、幼児健診で「子育てに充実感がある」と答えた人の割合は、目標値の98.0%前後で推移してきており、令和5年度においては97.1%となったものの、市民が安心して子育てできるまちづくりに寄与していると考えられる。
	実績	98.0%	96.2%	98.2%	98.1%	97.8%	97.1%		99.1%	未達成	

基本目標1 生涯にわたる健康づくりを進めます												
分野2 健康づくり												
市民がなっているべき状態(最終アウトカム)												
市民が、疾病予防に努めるとともに、病気の有無にかかわらず、前向きに自分らしく暮らすことができる												
最終アウトカムの指標												
病気の有無にかかわらず、前向きに自分らしく暮らすことができていると感じる割合												
数値目標実績 (上段:平均値(10点満点)／下段:標準偏差)												
計画策定時	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減	目標	定量的評価	総合評価		
8.00	→	7.77	→	→	8.03	→	0.03	上昇	達成	市民意識調査の結果、最終アウトカムに関しては、計画策定時と比較して平均値は概ね横ばい、標準偏差はやや低下の結果となった。中間評価時には平均値が低下したものの、正しい食習慣についての普及・啓発や、疾病予防や健康に関する啓発といった取組みもあり、最終評価時には上昇する結果となった。また、標準偏差は低下していることから、市民全体の不安の軽減に寄与しているといえる。		
2.17	→	2.15	→	→	2.02	→						

市民が受けているべきサービスの状態(中間アウトカム)
1 市民が健康につながる正しい知識や情報を得ることができる 2 市民が健康を維持するための生活習慣に取り組むことができる 3 市民が各種検診(健診)を受けて病気の早期発見や健康管理ができる 4 市民に病気があっても支援を受けながら生活することができる



最終アウトカムと中間アウトカムの関係について
最終アウトカムの平均値がほぼ横ばいであるものの、中間アウトカムの多くは目標未達成となっているという不整合が生じている。これは、計画策定時から改善していたとしても目標値の設定が厳しいため未達成との評価になってしまう指標が多い点が考えられる。

中間アウトカムの指標		計画策定時	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	達成率	定量的評価	総合評価
1 健康づくりに関する情報へのアクセス数(大津市ホームページ)	目標		→	74,000件	→	→	77,000件	→	—	—	健康づくりに関する情報へのアクセス数(大津市ホームページ)は、計画策定時に70,491件であったが、令和元年度に低下した後、徐々にアクセス数が増加。結果として、目標77,000件に対して、令和5年度実績は99,583件となり、目標達成に至った。 目標達成の理由としては、朝ごはんを食べる大切さや栄養バランスの良い食事について普及・啓発を行い、またSNSによる啓発活動がアクセス数増加につながったと考えられ、市民の生活習慣の改善が期待できる。
	実績	70,491件	53,034件	67,539件	75,466件	82,305件	99,583件		129.3%	達成	
2 毎日飲酒している人の割合	目標		→	18.0%	→	→	11.0%	→	—	—	毎日飲酒している人の割合は計画策定時に26.0%であり、令和3年度にかけて25.0%まで低下したが、それ以降は横ばいで推移しており目標達成には至っていない。
	実績	26.0%	25.6%	25.4%	25.0%	25.4%	24.9%		44.2%	未達成	
3 20歳の時の体重から10kg以上増加している人の割合	目標		→	29.0%	→	→	25.0%	→	—	—	20歳の時から体重が ^a 10kg以上増加している人の割合は、計画策定時の33.0%からさらに上昇し令和5年度には36.5%となっており、給食施設の指導を実施し栄養バランスのよい食事の提供を進めているが、中高年層にアプローチをする機会は少なく、目標達成には至っていない。中高年層にアプローチする機会を増やすには、事業所給食(いわゆる社員食堂)の指導を強化することで中高年層の適正体重の維持が期待できると考えられる。
	実績	33.0%	33.9%	35.1%	34.9%	37.1%	36.5%		68.5%	未達成	
4 日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施している人の割合	目標		→	20～64歳 38.5%	→	→	41.0%	→	—	—	日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施している人の割合は、20歳から64歳までの年齢層では計画策定時の36.0%から令和5年度に38.6%まで上昇したが、65歳以上の年齢層では計画策定時の52.8%から令和5年度に48.7%まで低下している。また、どちらの年齢層においても目標達成には至っていない。
	実績	20～64歳 36.0%	36.6%	35.3%	38.7%	37.8%	38.6%		94.1%	未達成	
		65歳以上 52.8%	50.1%	50.0%	49.8%	49.2%	48.7%		88.5%	未達成	
5 睡眠で休養が十分にとれている人の割合	目標		→	77.7%	→	→	84.0%	→	—	—	睡眠で休養が十分にとれている人の割合は、計画策定時の69.5%から令和2年度に65.8%まで低下したが、令和3年度から令和5年度にかけては横ばいで推移しており、令和5年度においては67.9%となっている。また、目標達成には至っていない。
	実績	69.5%	67.8%	65.8%	68.0%	68.5%	67.9%		80.8%	未達成	
6 たばこを習慣的に吸っている人の割合	目標		→	11.6%	→	→	8.6%	→	—	—	たばこを習慣的に吸っている人の割合は、計画策定時の16.6%から令和5年度に15.2%まで低下しているが、目標達成には至っていない。母子手帳交付時の啓発などの取組みを行っている。
	実績	16.6%	16.4%	16.2%	15.8%	15.6%	15.2%		56.6%	未達成	
7 家庭で受動喫煙の機会を有する人の割合	目標		→	6.0%	→	→	5.0%	→	—	—	家庭で受動喫煙の機会を有する人の割合は、計画策定時の6.8%から令和4年度に4.1%まで低下しており、目標達成に至った。母子手帳交付時の啓発などの取組みの効果ができていると考えられる。
	実績	6.8%	-	-	-	4.1%	-		122.0%	達成	
8 定期的ながん検診を受けている人の割合(例:大腸がん)	目標		→	—	→	→	50.0%	→	—	—	定期的ながん検診を受けている人の割合は、計画策定時の36.5%から令和2年度には33.0%まで低下したものの令和5年度には39.8%まで上昇している。しかし、目標達成には至っていない。
	実績	36.5%	-	33.0%	-	-	39.8%		79.6%	未達成	
9 特定健康診査受診率	目標		→	44.0%	→	→	50.0%	→	—	—	特定健康診査受診率は、計画策定時の38.1%から令和2年度に32.5%に低下したが、その後上昇し令和5年度には38.2%となっている。しかし、目標達成には至っていない。
	実績	38.1%	37.9%	32.5%	35.5%	36.0%	38.2%		76.4%	未達成	
10 病気があっても、主観的健康観が「とても健康」、「まあまあ健康」と答えた人の割合	目標		→	向上	→	→	向上	→	—	—	おおつ保健医療プラン2019の策定時に実施した市民意識調査(初回)結果を指標としているが、中間評価、最終評価時ではこの測定値をとるための調査を行っていないため、指標の見直しを行う。
	実績	74.8%	-	-	-	-	-		—	—	

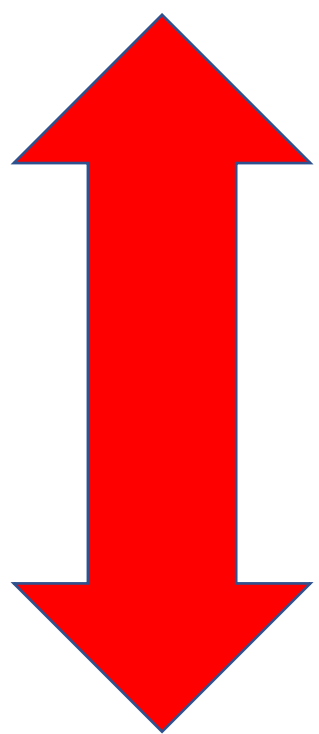
おおつ保健医療プラン2019 最終評価シート

基本目標1 生涯にわたる健康づくりを進めます

分野3 高齢者支援

市民がなっているべき状態(最終アウトカム)										
市民が、高齢になっても健康を維持でき、生きがいをもっていきいき暮らすことができる										
最終アウトカムの指標										
健康を維持でき、生きがいをもっていきいき暮らすことができていると感じる高齢者の割合										
数値目標実績 (上段:平均値(10点満点)／下段:標準偏差)										
計画策定時	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減	目標	定量的評価	総合評価
7.61	→	7.12	→	→	7.37	→	-0.24	上昇	未達成	
2.28	→	2.47	→	→	3.90	→				
市民意識調査の結果、最終アウトカムに関しては、計画策定時と比較して平均値はやや低下、標準偏差は上昇の結果となった。令和2年度にかけて平均値が低下したものの、介護予防やサービス利用などの取組みなどにより令和5年度にはやや改善している。										

市民が受けているべきサービスの状態(中間アウトカム)
1 市民が高齢になっても要介護認定・要支援認定・総合事業対象者とならずに生活することができる 2 要支援者・総合事業対象者となっても介護予防サービスを利用して生活することができる 3 市民が認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活することができる



最終アウトカムと中間アウトカムの関係について
中間アウトカムでは、要介護者・要支援者・総合事業対象者の割合が増加傾向にあり、介護予防・生活支援サービスを利用している人の割合が低下しており目標未達成となった。また、最終アウトカムは平均値低下、標準偏差上昇しており、中間アウトカムと概ね相関関係にあると考えられる。

中間アウトカムの指標		計画策定時	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	達成率	定量的評価	総合評価
1 要介護者・要支援者・総合事業対象者の割合 (各年4月1日)	目標		→	19.9%	→	→	21.5%	→	—	—	要介護者・要支援者・総合事業対象者の割合は増加傾向にあるものの、目標値よりは下回っており、介護予防への取組支援により伸び率を抑えることに寄与したと考えられる。
	実績	19.2%	19.8%	19.6%	20.3%	20.5%	20.7%		103.9%	達成	
2 要支援者・総合事業対象者のうち介護予防・生活支援サービスを利用して生活している人の割合 (4月実績)	目標		→	72.5%	→	→	77.2%	→	—	—	新型コロナウイルス感染症の影響により介護予防・生活支援サービスを利用して生活している人の割合は令和4年度にかけて低下傾向にあり、令和5年度に上昇したが目標達成には至っていない。
	実績	67.4%	57.6%	55.5%	53.2%	52.2%	53.7%		69.6%	未達成	
3 認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活することができるかという問いに「そう思う」、「ややそう思う」と答えた市民の割合	目標		→	51.7%	→	→	54.7%	→	—	—	新型コロナウイルス感染症の影響により講座開設などができなかったが、企業・職域型の養成講座など講座開設数・受講者数ともに増加し、復調傾向にある。なお、認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活することができるかという問いに「そう思う」、「ややそう思う」と答えた市民の割合については、アンケートの実施を令和7年度に予定している。
	実績	49.7%	-	-	-	-	-		—	—	

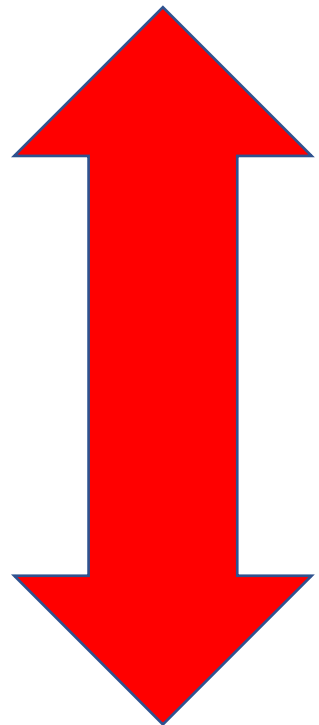
おおつ保健医療プラン2019 最終評価シート

基本目標1 生涯にわたる健康づくりを進めます

分野4 難病支援

市民がなっているべき状態(最終アウトカム)										
難病患者や家族が、望む場所で望む人と、安心して自分らしい生活続けることができる										
最終アウトカムの指標										
難病患者及びその家族が自分らしく暮らすことができると感じる割合										
数値目標実績 (上段:平均値(10点満点)／下段:標準偏差)										
計画策定時	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減	目標	定量的評価	総合評価
7.58	→	5.83	→	→	7.30	→	-0.28	上昇	未達成	市民意識調査の結果、最終アウトカムに関しては、計画策定時と比較して平均値はやや低下、標準偏差は低下の結果となった。中間評価時には平均値が低下したものの、個別相談などの取組みにより最終評価時には改善している。また、標準偏差は低下していることから、難病患者全体の不安の軽減に寄与しているといえる。
3.06	→	2.67	→	→	1.71	→				

市民が受けているべきサービスの状態(中間アウトカム)
1 難病患者の生活の質(QOL)が高くなっている 2 家族の生活の質(QOL)が高くなっている 3 災害時の対応が地域ぐるみでできる



最終アウトカムと中間アウトカムの関係について
中間アウトカムでは、災害時の援助方法が明確になっている難病患者の割合の上昇が見られたものの、すべての指標において目標未達成となった。また、最終アウトカムは平均値がやや低下しており、中間アウトカムと概ね相関関係にあると考えられる。

中間アウトカムの指標		計画策定時	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	達成率	定量的評価	総合評価
1 難病患者が生活に満足を感じている割合	目標		→	88.0%	→	→	90.0%	→	—	—	難病患者が生活に満足を感じている割合は、個別相談、家庭看護に関する相談といった取組みにより令和4年度までは上昇傾向にあったが、令和5年度にはやや低下しており目標達成には至っていない。
	実績	—	86.0%	86.1%	86.9%	87.7%	83.4%		92.7%	未達成	
2 必要な情報や支援が得られている割合	目標		→	92.0%	→	→	95.0%	→	—	—	必要な情報や支援が得られている割合は、個別相談などの取組みを行い保健所とのつながりを強化しているが、令和元年度の90.3%から令和3年度には91.4%に上昇した。しかし、令和5年度時点では88.5%となっており、目標達成には至っていない。
	実績	—	90.3%	90.9%	91.4%	85.9%	88.5%		93.2%	未達成	
3 災害時の援助方法が明確になっている難病患者の割合	目標		→	30.0%	→	→	50.0%	→	—	—	災害時の援助方法が明確になっている難病患者の割合は、計画策定時の22.0%から令和5年度の47.6%まで大きく上昇しており、対応が進んでいると思われる。また、災害時の援助方法が不明確であると把握した患者及び家族に対しては、個別相談につなげ、継続的な支援を行っているが、目標達成にはわずかに至っていない。
	実績	22.0%	42.1%	42.5%	47.5%	46.1%	47.6%		95.2%	未達成	

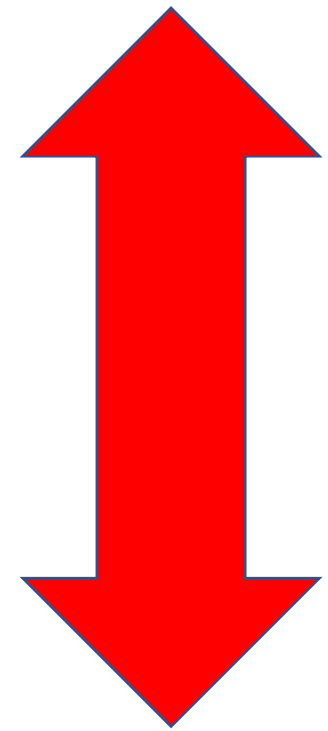
おおつ保健医療プラン2019 最終評価シート

基本目標1 生涯にわたる健康づくりを進めます

分野5 精神保健

市民がなっているべき状態(最終アウトカム)										
精神障害者や精神的健康に課題を抱える者及び家族並びに地域住民が、安定した社会生活を送ることができる										
最終アウトカムの指標										
精神疾患がある方及びその家族が自分らしく暮らすことができていると感じる割合										
数値目標実績 (上段:平均値(10点満点)／下段:標準偏差)										
計画策定時	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減	目標	定量的評価	総合評価
6.09	→	5.53	→	→	6.11	→	0.02	上昇	達成	市民意識調査の結果、最終アウトカムに関しては、平均値・標準偏差ともに目標を達成した。 家族交流会への参加などを通じて精神疾患を抱える患者及びその家族が同じ境遇の人達とつながることができており、医療機関の情報も得ることができている。その結果、自分らしい生活を送れていると感じる人が増加し、精神疾患がある方及び家族が自分らしく暮らすことができることに寄与できたといえる。
2.75	→	2.50	→	→	1.91	→				

市民が受けているべきサービスの状態(中間アウトカム)
1 精神障害者や精神的健康に課題を抱える者の状態が落ち着いている 2 精神障害者や精神的健康に課題を抱える者の家族が健康で落ち着いて生活できる 3 社会全体が精神疾患を受入れることができる



最終アウトカムと中間アウトカムの関係について
中間アウトカムについては、全項目で概ね目標値を達成することができた。 また、最終アウトカムについては、新型コロナウイルス感染症の流行もあつたのにもかかわらず、流行前の水準と比較しても平均値・標準偏差ともに横ばいの結果となったことを加味すると、概ね相関関係にあると考えられる。

中間アウトカムの指標		計画策定時	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	達成率	定量的評価	総合評価
1 精神病床における1年以上の長期入院者数(65歳以上)	目標		→	286人	→	→	283人	→	—	—	専門医による精神保健福祉相談数の増加など、予防的介入により早期受診につながっていることが長期入院者の減少にも影響している。結果として、計画期間を通して、1年以上の長期入院者数(65歳以上)は減少の推移をたどっており、令和5年度においては目標値の283件よりも89件下回る結果を達成することができた。精神障害者や精神的健康に課題を抱える者の状態が落ち着いていることに寄与していると考えられる。
	実績	289人	281人	280人	261人	247人	194人		145.9%	達成	
2 精神病床における1年以上の長期入院者数(65歳未満)	目標		→	92人	→	→	80人	→	—	—	専門医による精神保健福祉相談数の増加など、予防的介入により早期受診につながっていることが長期入院者の減少にも影響している。結果として、計画期間を通して、1年以上の長期入院者数(65歳未満)は減少の推移をたどっており、令和5年度においては目標値の80件より9件下回る結果を達成することができた。精神障害者や精神的健康に課題を抱える者の状態が落ち着いていることに寄与していると考えられる。
	実績	103人	106人	98人	87人	74人	71人		112.7%	達成	
3 精神障害者の家族教室・交流会の満足度	目標		→	95.0%	→	→	98.0%	→	—	—	当計画期間では、新型コロナウイルス感染症の流行があつたことや、家族教室・交流会への参加者が固定化され期待値を超えられなかったこともあり、令和5年度の目標値98.0%には到達しなかったものの、実行回数の増加によって集う場を設けることができた。この結果、令和4年度では満足度89.0%へ低下したものの、他の年度については90%以上、令和5年度は96.0%の満足度となり、精神障害者や精神的健康に課題を抱える者の家族が健康で落ち着いて生活できることに寄与していると考えられる。
	実績	—	90.0%	95.0%	93.0%	89.0%	96.0%		98.0%	未達成	
4 家族が精神の病気に罹った時に相談しようと思う割合	目標		→	90.0%	→	→	95.0%	→	—	—	令和5年度は目標値95.0%に対して93.0%の実績値となり、目標値に僅かに届かない結果となった。しかし、当計画期間では、新型コロナウイルス感染症の流行がありながらも、計画期間を通して、家族が精神の病気に罹った時に相談しようと思う割合は+6.0%の増加となっている。本市では、保健師等による精神保健福祉相談以外にも、地域の相談機関等で相談できる体制が整ってきており、社会全体で精神疾患を受入れることができる方向性へと向かっていると考えられる。
	実績	—	87.0%	—	—	—	93.0%		97.9%	未達成	

おおつ保健医療プラン2019 最終評価シート

基本目標2 安全で快適な生活環境づくりを進めます

分野6 感染症対策

市民がなっているべき状態(最終アウトカム)										
市民が感染症の脅威から逃れ、安心して暮らすことができる										
最終アウトカムの指標										
感染症に関して不安なく暮らすことができていると感じる市民の割合										
数値目標実績 (上段:平均値(10点満点)／下段:標準偏差)										
計画策定時	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減	目標	定量的評価	総合評価
7.69	→	7.20	→	→	7.57	→	-0.12	上昇	未達成	
2.28	→	2.30	→	→	2.14	→				
市民意識調査の結果、最終アウトカムに関しては、計画策定時に比較して平均値・標準偏差は概ね横ばいの結果となった。 当計画期間中には、新型コロナウイルス感染症が流行したが、感染症にかかっても適切な医療や支援が受けられる体制整備に努めた結果、令和5年度において平均値は計画策定時と横ばいとなり、また標準偏差については低値を示していることから、市民が感染症に関して不安なく暮らすことができていると感じることに寄与することができたといえる。										

市民が受けているべきサービスの状態（中間アウトカム） 1 市民が感染症にかからない（予防している） 2 市民が感染症にかかっても、適正な医療や支援を受けることができる（重症化予防）		最終アウトカムと中間アウトカムの関係について 中間アウトカムについては、全項目で概ね目標値を達成することができた。 また、最終アウトカムについては、新型コロナウイルス感染症の流行もあったのにもかかわらず、流行前の水準と比較しても平均値・標準偏差ともに横ばいの結果となったことを加味すると、概ね相関関係にあると考えられる。
--	---	--

中間アウトカムの指標		計画策定時	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	達成率	定量的評価	総合評価
1 先天性風しん症候群の発生件数	目標		→	0件	→	→	0件	→	—	—	風疹の定期予防接種対象者への勧奨と妊娠を希望者やその家族への風しん抗体検査等の費用助成制度の周知に努めた結果、計画期間を通して、先天性風しん症候群の発生はなく、目標値の0件を達成することができた。市民が感染症にかからないことに寄与していると考えられる。
	実績	0件	0件	0件	0件	0件	0件		100.0%	達成	
2 結核り患率(人口10万人対)	目標		→	10.0以下	→	→	10.0以下	→	—	—	DOTSによる患者の治療完了や、接触者および定期健診、また関係機関への周知により感染を早期に発見することができており、この結果、結核り患率は、令和3年度および令和4年度は目標値の10.0を超えたものの、令和5年度には7.5と目標値を下回る結果となった。市民が感染症にかからないことに寄与していると考えられる。
	実績	12.0	9.3	8.1	11.0	12.7	7.5		133.3%	達成	
3 集団発生事例における入院患者の割合(入院者数/有症者数)	目標		→	2.0%	→	→	0.0%	→	—	—	施設従事者に対する研修会や集団発生時の指導により感染拡大を予防した結果、集団発生事例における入院患者の割合は、計画策定時は3.7%であったが、その後は計画期間を通して1.0%未満を推移しており、市民が感染症にかかっても、適正な医療や支援を受けられることに寄与していると考えられる。
	実績	3.7%	0.9%	0.7%	0.1%	0.5%	0.7%		—	未達成	

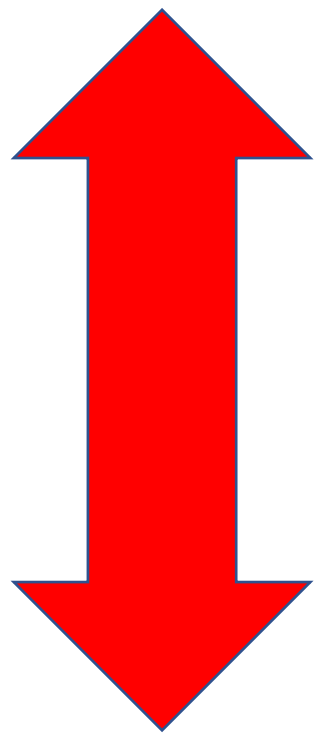
おおつ保健医療プラン2019 最終評価シート

基本目標2 安全で快適な生活環境づくりを進めます

分野7 生活衛生対策

市民がなっているべき状態(最終アウトカム)										
市民が健康で衛生的な日常生活を送ることができる										
最終アウトカムの指標										
食べ物や暮らしを取り巻く衛生面に不安なく日常生活を送ることができていると感じる市民の割合										
数値目標実績 (上段:平均値(10点満点)／下段:標準偏差)										
計画策定時	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減	目標	定量的評価	総合評価
8.33	→	8.12	→	→	8.29	→	-0.04	上昇	未達成	市民意識調査の結果、最終アウトカムに関しては、計画策定時に比較して平均値・標準偏差は概ね横ばいの結果となった。 当計画期間中には、新型コロナウイルス感染症が流行し、生活衛生営業施設の利用に係る不安感が生じる状況もあったものの、各施策の取組みの結果、令和5年度において平均値は計画策定時と横ばいとなり、また標準偏差については低値を示していることから、市民全体が衛生面に不安のない日常生活を送ることに寄与することができたといえる。
1.92	→	1.82	→	→	1.84	→				

市民が受けているべきサービスの状態(中間アウトカム)
1 市民が食中毒にならない 2 市民が衛生的な生活環境で暮らすことができる



最終アウトカムと中間アウトカムの関係について
中間アウトカムについては、3項目中2項目で概ね目標値を達成することができた。また、最終アウトカムについては、平均値・標準偏差ともに横ばいの結果となっており、概ね相関関係にあると考えられる。

中間アウトカムの指標		計画策定時	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	達成率	定量的評価	総合評価
1 人口10万人あたりの食中毒患者数(全国平均以下)	目標		→	—	→	→	9.5人	→	—	—	食の安全・安心情報の配信と、シンポジウムの開催等を通して、市民に対する啓蒙活動を行う等の取組みを行った。一方で、飲食等食品営業施設に対する「HACCPに沿った衛生管理」の導入指導に時間を要した結果、目標値を下回ったため、HACCPに沿った衛生管理の導入及び実施の徹底について、引き続き監視指導を行っていく必要がある。 また、人口10万人あたりの食中毒患者数について、食中毒事件は1件のみであったが、病因物質の性質によって患者数が多数(45名)となり、目標値に至らなかった。
	実績	10.9人	1.5人	41.1人	1.5人	19.5人	14.9人		—	未達成	
2 指導実施施設における翌年の苦情再発率	目標		→	0.0%	→	→	0.0%	→	—	—	新型コロナウイルス感染症の流行により、市民が衛生環境に過敏になる中で、生活衛生施設に対する苦情件数はやや増加したが、迅速かつ適切な施設立入及び指導を行い、衛生水準が維持されるために適切な頻度で監視指導を実施した。 その結果、目標値の0.0%を達成し、市民の衛生的な生活環境での暮らしに寄与していると考えられる。
	実績	0.0%	27.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%		—	達成	
3 狂犬病予防接種率	目標		→	80.0%	→	→	80.0%	→	—	—	広く適正飼養の普及啓発ができたことにより、狂犬病予防接種率が目標値80.0%に対して令和5年度の実績は79.8%と概ね目標値を達成し、結果として、市民の衛生的な生活環境での暮らしに寄与していると考えられる。
	実績	78.5%	78.9%	78.9%	80.0%	79.0%	79.8%		99.8%	未達成	

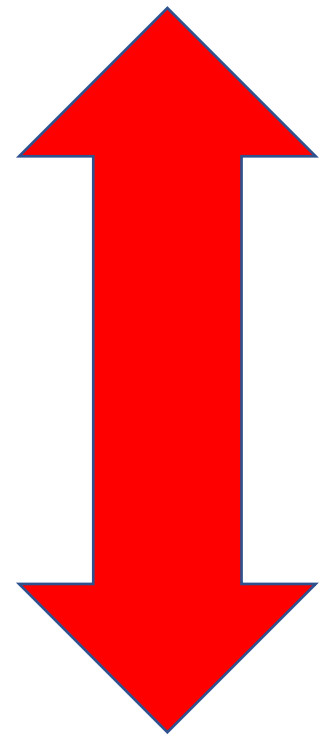
おおつ保健医療プラン2019 最終評価シート

基本目標3 安心して暮らせる医療体制づくりを進めます

分野8 医療体制・医療安全

市民がなっているべき状態(最終アウトカム)										
市民が望んでいる安全・安心な医療を受けることができる										
最終アウトカムの指標										
医療を身近に感じて、安心して受診することができていると感じる市民の割合										
数値目標実績 (上段:平均値(10点満点)／下段:標準偏差)							増減	目標	定量的評価	総合評価
計画策定時	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度				
7.91	→	7.70	→	→	7.79	→				
2.18	→	2.31	→	→	2.16	→				市民意識調査の結果、最終アウトカムに関しては、計画策定時に比較して平均値がやや低下し、また標準偏差がやや縮小する結果となり、概ね目標を達成した。 当計画期間においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大もあり、医療提供体制の維持が非常に難しい局面にあったが、適時適切な整備に努めた結果と考えられる。

市民が受けているべきサービスの状態(中間アウトカム)
1 市民が状態に応じた医療を選択することができる 2 市民が適正に救急医療を利用することができる 3 市民が安全な医療などのサービスを受けることができる 4 市民が不安なく医療機関などを利用することができる



最終アウトカムと中間アウトカムの関係について
中間アウトカムについては、新型コロナウイルス感染症の流行の影響があり、療養環境や看取りに関する2指標が未達成となったが、その他は概ね達成した。他方、最終アウトカムについては、全体として概ね目標値を達成し、中間アウトカムと最終アウトカムについて、概ね相関関係にあると考えられる。

中間アウトカムの指標		計画策定時	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	達成率	定量的評価	総合評価
1 長期療養や看取りに関する希望を持っている市民の割合	目標		→	向上	→	→	向上	→	—	—	計画期間中に新型コロナウイルス感染症の流行の影響によって、在宅療養の認識が高まった反面、市民啓発活動の機会が減少し、結果として、長期療養や看取りに関する希望を持っている市民の割合としては、計画策定時よりも低下している状況である。このため、市民が状態に応じた医療を選択できるようにするための取組み余地はあると考えられる。
	実績	72.5%	-	—	—	62.4%	-		—	未達成	
2 病床機能のうち、不足する病床数(回復期)	目標		→	—	→	→	—	→	—	—	二次医療圏として地域医療構想へ取組んだ結果、会議等を通して、適正な医療機能が保てるよう病院間との情報共有や共通理解を深めてきたことで不足する病床数は徐々に改善傾向となっている。ただし、令和5年度においても、不足病床数は538床あり、市民が状態に応じた医療を選択することができるようより一層の取組みを行う余地はあると考えられる。
	実績	628床	535床	557床	557床	557床	538床		—	—	
3 救急搬送で適正に利用している割合(救急搬送で軽症を除いた割合)	目標		→	向上	→	→	向上	→	—	—	市民への救急の適正利用を周知する取組みを行った結果、計画期間を通して適正利用率を30%台を維持し、市民が適正に救急医療を利用することに寄与したと考えられる。
	実績	32.0%	31.4%	33.5%	36.1%	33.1%	未確定(7月頃の予定)		未確定	未確定	
4 医療安全対策に関する委員会を設置している病院の割合	目標		→	—	→	→	—	→	—	—	医療機関立入検査の検査項目の適合率は95%以上の高値で推移しており、医療安全対策に関する委員会を設置している病院は計画期間を通して100.0%を維持しており、医療安全対策が着実に機能していると考えられ、市民が安全な医療などのサービスを受けることができることに寄与していると考えられる。
	実績	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		—	—	
5 医療相談に対する相談者の納得度	目標		→	向上	→	→	向上	→	—	—	医療安全支援センターの相談件数は維持しており、また、相談内容としては複雑・多岐にわたるものの、納得度は高値で推移している。令和5年度については89.6%の納得度を得ており、令和4年度より微減してはいるものの、計画期間を通して市民が不安なく医療機関などを利用することができることに寄与していると考えられる。
	実績	—	89.3%	90.4%	92.6%	90.5%	89.6%		100.3%	達成	

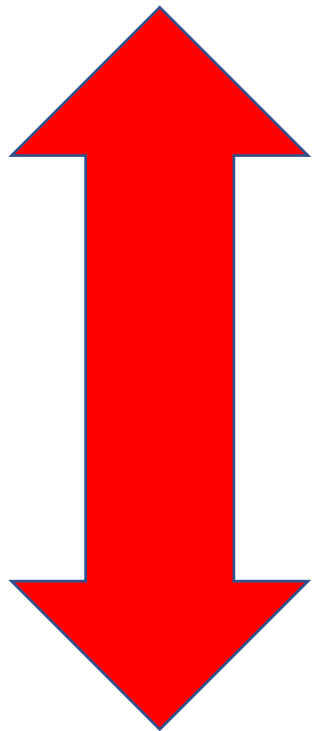
おおつ保健医療プラン2019 最終評価シート

基本目標3 安心して暮らせる医療体制づくりを進めます

分野9 健康危機管理

市民がなっているべき状態(最終アウトカム)
災害が起こったとき、市民が健康を保つことができる 新型インフルエンザ等が発生したとき、市民が健康を保つことができる

最終アウトカムの指標	増減	目標	定量的評価	総合評価
万一の発生に備え、体制整備に努めており、今後も継続的に 行う ・災害に備えた体制の構築 ・新型インフルエンザ等発生時に備えた体制の構築	—	指標として数値目標になじまないため、設定しない。	—	健康危機管理分野については、大規模地震や新興・再興感染症等の発生の有無は、事前に想定することが困難であるため、数値目標を設定しておらず、定量的評価はなし。 当計画期間においては、複数年に及ぶ新型コロナウイルス感染症対応が求められたが、感染拡大に対応するため、医療専門職の確保に努めるとともに、コロナ禍の経験を踏まえた健康危機対処計画を定め、感染症有事に備えた本庁からの応援体制、外部リソースの活用等の人員体制を構築することができた。また、頻発する大規模災害に備えるため、災害対応訓練や研修を継続実施、職員の危機管理意識の高揚に努め、災害対応体制を構築した。さらに、鳥インフルエンザや大規模地震など、市内外で発生した健康危機事案にも職員の派遣など、適切に対応することができ、市民が健康を保つことができるよう寄与することができたといえる。



最終アウトカムと中間アウトカムの関係について
災害及び感染症に備えた取組みの結果として、両アウトカムは相関的な動きを見せている。

市民が受けているべきサービスの状態(中間アウトカム)
1 市民が災害時に必要な保健医療を受けることができる 2 市民が災害時に避難所、自宅での生活を健康に送ることができる 3 市民が新型インフルエンザ等に感染しない 4 市民が新型インフルエンザ等に感染しても必要な医療を受けることができる

中間アウトカムの指標		計画策定時	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	達成率	定量的評価	総合評価
1 地域災害拠点病院数	目標		→	—	→	→	—	→	—	—	市内の災害拠点病院として、市立大津市民病院及び滋賀医科大学医学部附属病院の2病院、基幹災害拠点病院として大津赤十字病院があることから、市民が災害時に必要な医療を受ける体制に寄与していると考えられる。
	実績	2病院	2病院	2病院	2病院	2病院	2病院				
2 市民の健康維持に従事する保健師など専門職の確保	目標		→	—	→	→	—	→	—	—	当期間中は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴って、感染症対応業務が爆発的に急増したが、保健師等の専門職の確保に努めた結果、計画策定時より13名増員となり、市民が感染症の急拡大時に必要な保健医療を受ける体制に寄与していると考えられる。
	実績	88人	86人	84人	92人	102人	101人				
3 自然災害等を想定した訓練・研修の実施回数	目標		→	—	→	→	—	→	—	—	当計画期間中は、新型コロナウイルス感染症の流行の影響もあり、令和2年度及び令和3年度において、研修の実施回数が減少したものの、実績を上回る訓練・研修を実施し、市民が災害時に避難所、自宅等で避難生活を健康に送ることができる体制に寄与していると考えられる。
	実績	2回	2回	2回	1回	7回	9回				
4 国内発生があっても市内で感染者がでない	目標		→	—	→	→	—	→	—	—	当計画期間中は、新型コロナウイルス感染症の流行もあり、感染者数が大きく増加する推移をたどったものの、令和5年度については感染者数が904名となり、減少に転じる結果となった。 減少に転じた理由としては、令和5年度の感染者数は、新型コロナウイルス感染症の5類移行前までの人数を集計していることが主となるが、そのほかに、市民へ予防啓発活動を実施したことや、集団感染が起こりやすい社会福祉施設等を対象とした研修会を実施したことも、市民が新型インフルエンザ等に感染しないことに寄与したと考えられる。
	実績	0人	4人	918人	17,403人	77,342人	904人				
5 新型インフルエンザ等に対する医療を提供する医療機関等の数	目標		→	—	→	→	—	→	—	—	新型コロナウイルス感染症対応の経過により医療機関が感染症が疑われる患者の受け入れの可否を明確に示したことによって、新型インフルエンザ等に対する医療を提供する医療機関等の数としては、計画当初より86か所の減少となった。この結果、医療機関数は減少したものの、受け入れ可能な医療機関が明確になり、市民が発熱等の感染が疑われる状況でも医療にアクセスが可能となった側面もあり、市民が新型インフルエンザ等に感染しても必要な医療を受けることができることに寄与したと考えられる。
	実績	214か所	213か所	216か所	217か所	154か所	128か所				